



「第12回キッズデザイン賞」内閣総理大臣賞など本日発表！

～さまざまな社会課題を「子ども視点」で解決。優れたデザインを顕彰～

キッズデザイン協議会〈会長：山本 正己（富士通株式会社 取締役会長）〉は、子どもの安全・安心と健やかな成長発達に役立つ優れた製品・空間・サービス・活動・研究などを顕彰する「キッズデザイン賞」の第12回受賞作品 252点の中から、最優秀賞、優秀賞、奨励賞、特別賞など、優秀作品33点を本日発表いたします。

第12回目を迎えるキッズデザイン賞は、2007年の創設以来、「すべての子どもは社会の宝であり、私たちの未来そのものです。」を基本方針に掲げ活動を続けてきました。今回も全国の企業だけでなく、自治体や教育機関・NPOなど様々な団体から応募いただき、累計で応募数は4,549点、受賞数は2,705点となりました。

今回は新カテゴリーとして近年増加傾向にあった「アプリケーション・サービス」を独立させ、共働き家庭や不安になりがちな妊娠時期をサポートするサービスなど多数の応募がありました。

「第12回キッズデザイン賞」の賞体系

最優秀賞	内閣総理大臣賞（最優秀賞） 1点								
部門	子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン		子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン			子どもたちを産み育てやすいデザイン			
部門受賞	① 子ども部門	② 一般部門	③ クリエイト部門	④ リファイン部門	⑤ 消費者育成部門	⑥ 個人・家庭部門	⑦ 地域・社会部門	⑧ 男女共同参画部門	
優秀賞	経済産業大臣賞 1点	経済産業大臣賞 1点	経済産業大臣賞 1点	経済産業大臣賞 1点	消費者担当大臣賞 1点	少子化対策担当大臣賞 1点	少子化対策担当大臣賞 1点	男女共同参画担当大臣賞1点	
奨励賞	キッズデザイン協議会 会長賞		キッズデザイン協議会 会長賞			キッズデザイン協議会 会長賞			
特別賞	東京都知事賞 審査委員長特別賞		審査委員長特別賞			審査委員長特別賞			TEPIA 特別賞
キッズデザイン賞（審査通過作品）									



<審査委員長 益田文和からのコメント>

12年という節目を迎えて、時代の流れが見えてきたように思う。これまで応募する側も審査する側も、子どもを守るということに気を配り、不備がないよう慮ってきた。しかし、今回子どもたちが高齢者を見守るという逆転の発想や、子どもの安全を考えると大人にとっての問題解決につながる可能性に出会うことができた。私たちは子どものことを考え続けることによって私たちの未来を形作っている。そのことを世界の子どもたちから学ぶ時代なのかもしれない。

「第12回キッズデザイン賞」実施概要

- 【主 催】 特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会
- 【後 援】 経済産業省、内閣府、消費者庁
- 【特別協賛】 森ビル株式会社
- 【概 要】 キッズデザイン賞は、子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・空間・サービス・活動・研究を対象とする顕彰制度です。
キッズデザイン賞は、「子どもたちが安全に暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製品・空間・サービス・活動・研究の中から優れた作品を選び、広く社会に発信していくことを目的に創設されました。子ども用にデザインされたものはもちろん、大人・一般向けに開発されたものでも、子どもや子育てに配慮されたデザインであればすべてが対象となります。
キッズデザイン賞を受賞した作品には「キッズデザインマーク」をつけることが認められ、販売促進活動や広報活動などで、その成果を広く社会にアピールすることができます。 ※キッズデザイン賞での「子ども」の対象は、0～15歳までを指します。
- 【募集期間】 2018年3月1日(木)～5月11日(金)
- 【応募方法】 キッズデザイン賞webサイト<<https://kidsdesignaward.jp/>>より受付
- 【受賞数】 **受賞数 252点** (応募数：468点)
応募者は、キッズデザインの3つのデザインミッションから設けられた以下より応募部門を選択。
- 【部 門】 **《子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン》・・・75点**
子どもの安全・安心に寄与する製品、建築・空間、サービス、活動、研究など。子ども向け、あるいは一般向けの製品、建築・空間、サービス、活動、研究において、安心・安全に配慮されたもの。
- 《子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン》・・・102点**
子どもの創造性や感性に寄与する製品、建築・空間、サービス、活動、研究など。子どもの創造性・感性の育成、多様な知識の習得や運動能力の向上に役立つもの。また、そこに新たな発想、工夫、手法があるもの。
- 《子どもたちを産み育てやすいデザイン》・・・75点**
子どもや子育てに関わる人々に寄与する製品、建築・空間、サービス、活動、研究など。
妊娠・出産・子育てに関わる人が利用する製品、建築・空間、サービス、活動、研究において、安全かつ楽しく育児に取り組める工夫がなされたもの。保育園、学校、自治体、地域などで利用されるものも含む。また、子育て期の男女が、育児や仕事、地域との交流などに積極的に参加するための新たな発想、工夫、手法があるもの。
- 【カテゴリー】 **A. プロダクト**
B. アプリケーション・サービス **〈新設〉**
C. 建築・空間
D. コミュニケーション
E. 調査・研究 ※データ公開を原則として審査料無料

【報道関係者からのお問合せ先】

「第12回キッズデザイン賞」広報事務局（カーツメディアワークス内） 澤田・田口・小石

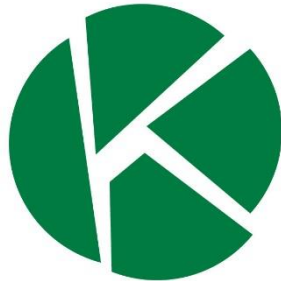
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-mail：info@kartz.co.jp

【企業様からのお問合せ先】

「第12回キッズデザイン賞」事務局 TEL：03-5405-2142 FAX：03-5405-2143（平日10:00-17:00）

主催：特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会 TEL：03-5405-2141 FAX：03-5405-2143

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル7階



KIDS
DESIGN
AWARD
2018

**『第12回キッズデザイン賞』
各賞受賞作品一覧**

2018年9月25日

特定非営利活動法人

キッズデザイン協議会

『第12回キッズデザイン賞』優秀作品一覧

受賞タイトル		作品名		応募団体名	展示	
最優秀賞	内閣総理大臣賞	QuickFree®		Y K K株式会社	1	
子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン	優秀賞	経済産業大臣賞	死角にいる子どもを守る、人間中心の設計思想に基づいた360°ビューモニター	マツダ株式会社	2	
	奨励賞	子ども部門	キッズデザイン協議会会長賞	ギョウト・アニーズ・KE BE-ELKE03	パナソニック サイクルテック株式会社	8
			発達障害のある子どもの公共トイレに関する研究	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 / 日本工業大学 / 横浜国立大学	6	
	優秀賞	経済産業大臣賞	ウォーターサーバー FRECIIOUS dewo	富士山の銘水株式会社	9	
	奨励賞	一般部門	キッズデザイン協議会会長賞	ナブコ自動ドア『NATRUS (ナトラス)』	ナブテスコ株式会社	3
			安心・安全ライティングに関する研究	三菱電機株式会社	4	
	特別賞	東京都知事賞		自動ドア装置「FJ3」	日本自動ドア株式会社	14
		審査委員長特別賞		応急避難施設	国土建設株式会社	5
				ルシアス ハルコニー	YKK AP株式会社	7
	子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン	優秀賞	経済産業大臣賞	MESH	ソニー株式会社 MESHプロジェクト	16
奨励賞		刈刈イイ部門	キッズデザイン協議会会長賞	つくば7Cスタディ	つくば市総合教育研究所	10
			VIVISTOP	VIVITA株式会社	11	
優秀賞		経済産業大臣賞	みんなで考える桃太郎 ～新聞広告から生まれた中学校の道徳授業～	株式会社博報堂 / 一般社団法人シンク・ジ・アース	30	
奨励賞		リテラシー部門	キッズデザイン協議会会長賞	くるま育 中高生向けプログラム	トヨタ自動車株式会社	13
			子どものカラダとアートをつなぐプロジェクト 「カラダがよるこぶ美術館」	んまつーボス (Namstrops) / 特定非営利活動法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER / 宮崎大学教育学部高橋るみ子研究室	12	
優秀賞		消費者担当大臣賞	コープデリの子育て応援	コープデリ生活協同組合連合会	21	
奨励賞		消費者育成部門	キッズデザイン協議会会長賞	食べ残しNOゲーム	特定非営利活動法人DeepPeople	17
			いきものたちの巣まい図鑑	ミサワホーム株式会社	18	
特別賞		審査委員長特別賞		アベマキ学校机プロジェクト	美濃加茂市 / 可茂森林組合 / 合同会社椿洞ものづくり研究所 / 株式会社丸七ヒダ川ウッド / 美濃加茂市立山之上小学校	20
	UDデジタル教科書体 和文・欧文・学習記号			株式会社モリサワ	19	
産み育てやすいデザイン	優秀賞	少子化対策担当大臣賞	ベビーカレンダーアプリ	株式会社ベビーカレンダー	33	
	奨励賞	個人・家庭部門	キッズデザイン協議会会長賞	病児保育ネット予約サービス「あずかるこちゃん」	CI Inc. / 株式会社インキュビット	31
			教えて！ドクター こどもの病気とおうちケア	長野県佐久市 / 一般社団法人佐久医師会	32	
	優秀賞	少子化対策担当大臣賞	ベリーベアー-深川冬木	積水ハウス株式会社 / 株式会社ネス・コーポレーション	24	
	奨励賞	地域・社会部門	キッズデザイン協議会会長賞	SDGsこども見守り隊 「きみも今日からきりっこキッズ見守り隊」	近江八幡市	22
			向原住宅団地再生事業	東京都住宅供給公社	25	
	優秀賞	男女共同参画担当大臣賞	三菱レンジグリル (オープンレンジ) RG-HS 1	三菱電機株式会社	27	
	奨励賞	男女共同参画部門	キッズデザイン協議会会長賞	子育て戦隊ノビレンジャー	豊田市男性保育師連盟	26
			トモイエ 共働きファミリーが暮らす家	積水ハウス株式会社	28	
	特別賞	審査委員長特別賞		フィロル	株式会社オカムラ	23
認定こども園 なこそ幼稚園				株式会社川島真由美建築デザイン / 学校法人勿来中野学園	29	
TEPIA特別賞		JAL STEAM SCHOOL		日本航空株式会社	15	

■作品名 QuickFree®
 ■企業・団体名 YKK株式会社

■作品の概要

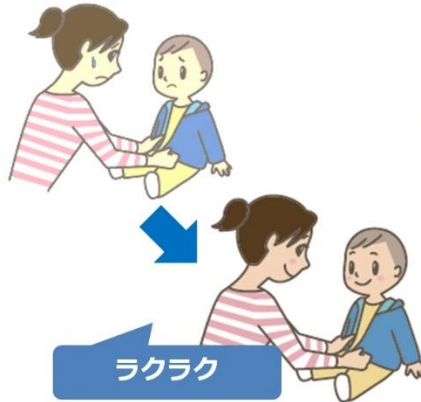
ファスナーのスライダー部品を改良することで、ファスナーの開製品の操作がしやすくなりました。操作性の向上によって子どもが一人で衣服を着脱することを助け、親も着せやすくなります。また、左右に一定の力が加わるとスライダーが外れてファスナーが開く解放機能を備えています。



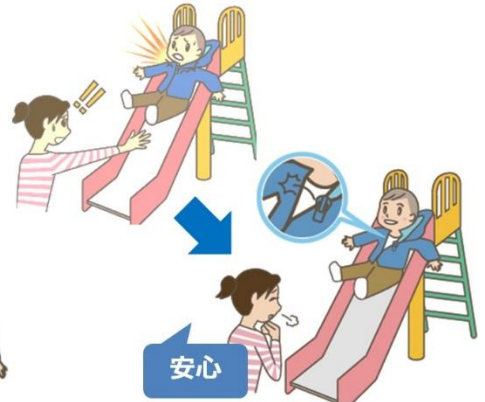
子供が操作しやすい



親が着せやすい



負担軽減（解放機能つき）



■受賞理由

子ども服のフードが、すべり台等の遊具やドアノブに引っ掛かることによる、首絞まり事故は状況によっては重篤化する可能性がある。子ども用衣料（ひもの安全基準）のJISが制定されるなど、官民あがての対策が進められているが、本製品はファスナーの改良という従来にないアプローチで、安全性向上に貢献するものである。荷重が加わっても外れない工夫に取り組んできたファスナーが、「外れた方がよい場合もある」ことに気づいたことでデザインと機能に新たな方向を示した好例である。多くの衣類や装具に採用されることでファスナーの概念を覆す可能性を持つ、最優秀賞にふさわしい取組である。

子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン

子どもの安全・安心に寄与する製品、建築・空間、サービス、活動、研究など。子ども向け、あるいは一般向けの製品、建築・空間、サービス、活動、研究において、安心・安全に配慮されたもの。

【子ども部門】

優秀賞 経済産業大臣賞

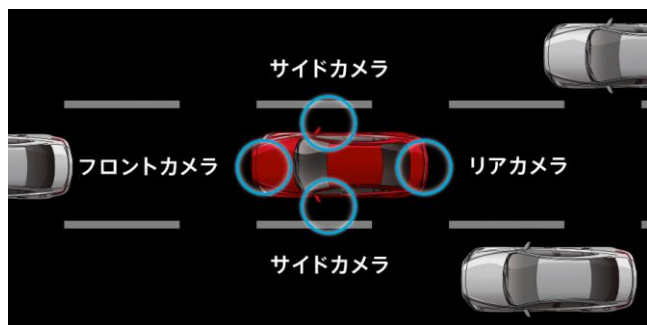
展示No.2

■作品名 死角にいる子どもを守る、人間中心の設計思想に基づいた360°ビューモニター

■企業・団体名 マツダ株式会社

■作品の概要

フロント・サイド（左右）・リアの4つのカメラを使ってセンターディスプレイに周囲の映像を表示し、ドライバーからは見えない領域の認知をサポートするシステム。ドライバーが直感的に理解できるよう、“人間にとって自然な見え方”と“効果的な見せ方”にこだわりました。



■受賞理由

子どもが関わる自動車事故としては、走行時の飛び出しなどが想起されがちだが、駐車場や狭い道路での発進・後退時、低速走行時の巻き込み事故も多い。人気のSUVなど車高の高い車種では地面に近い位置など、運転席からの死角も多くなり、巻き込み事故につながるだけでなくドライバーの心理的負担も増す。本作品はこの状況に対する優れた課題解決提案である。同社の子ども視点かつドライバー心理に対する安全対策を体系的に進化させ続けている開発姿勢に共感する。

■作品名 ギュット・アニーズ・KE BE-ELKE03
 ■企業・団体名 パナソニック サイクルテック株式会社



※電子キー

■作品の概要

「子育て層が子どもと一緒に楽しめる移動の提供」を目指した、幼児用座席付き電動アシスト自転車。新しい鍵の開錠システムや子どもの乗せ降ろし、安全性を考慮した新設計の幼児用座席。また、車体全長を短くし駐輪時のスタンドを立てやすくする等、日々の生活でより安全かつ快適に使用することができるような工夫を施した点もこの商品の特徴です。



■受賞理由

自転車に子どもを乗せ、大人が降りている状態はバランスが悪く、転倒のリスクが大きい。抱っこひもからの乳児の滑り落ち事故も親が前かがみになった際に発生している。鍵を探し開錠する、スタンド操作やシートベルト調整をするといった動作の効率化は、転倒・転落事故のリスク軽減に役立ち、走行中の安全性確保と両立すべき重要な視点を有している。

■作品名 発達障害のある子どもの公共トイレに関する研究
 ■企業・団体名 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 / 日本工業大学 / 横浜国立大学

■作品の概要

発達障害のある子どもの保護者1,164名からのアンケート結果をもとに、公共トイレの利用実態を把握し、障害特性に配慮したパンフレットを作成した。発達障害のある人にも配慮した公共施設やまちづくりの基礎データとして活用されることが大いに期待できる。



公共トイレの設計や管理に関わる皆さまへ

公共トイレ
 ハンドブック

発達障害 編



■受賞理由

東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、公共施設のバリアフリー化が急がれているが、発達障害への配慮については根拠となるデータが乏しく、設計のガイドラインも作成できない状況にある。データに基づいた公共トイレの設計・管理のガイドラインの先行例として、また他の公共空間への波及効果も含め、ダイバーシティ社会のインフラ整備を実現する指針となる。

■作品名 ウォーターサーバー FRECIIOUS dewo

■企業・団体名 富士山の銘水株式会社

■作品の概要

フレッシュ・デュオは、天然水を快適に飲んでいただくために、プロダクトデザイナーの安積伸が手がけた家庭用冷温水ウォーターサーバーです。給水ボタンはチャイルドロック機能だけでなく、上部に配置することで子どもの手は届かず、逆に大人には楽な姿勢で使用できます。機能性や使いやすさはそのままに、安全性にもこだわった製品です。



小さな子供の手が届かない
安全・安心設計



軽量7.2ℓパックで
女性でも交換簡単



■受賞理由

近年急速に普及した冷温水ウォーターサーバーは、ミルクを作る需要から、一般家庭へ急速に普及しているほか、商業施設の授乳室等への設置も増えている。反面、いたずら盛りの子どもの手の届く位置に、80度以上のお湯が出る操作部がある機種も多く、やけど事故が発生している。本製品は、事故の多い2歳程度までの子どもの目線から見えない高さに操作部を設定し、大人にとっての使いやすさと子どもへの安全性を両立させた。以降のシリーズ化も含め、安全対策の先行事例として評価した。

■作品名 ナブコ自動ドア『NATRUS(ナトラス)』

■企業・団体名 ナブテスコ株式会社

■作品の概要

日々の様々なシーンにおいて、お子様からお年寄りまでが、毎日あたりまえのように通行している自動ドアに、3つの機能を搭載することで、より一層安全性の高いエントランスを実現するのが、ナブコ自動ドア『NATRUS』です。（機能1：リアルタイムでの機器間の相互監視、機能2：1開閉ごとの安全テスト、機能3：センサーエリアの高密度化）



■受賞理由

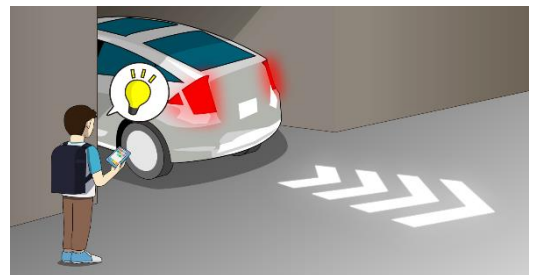
自動ドアでの衝突、挟まり事故等を防ぐため、2017年3月にJIS A 4722が制定された。本作品はこれに対応し、さらに機器の故障により安全機能が十分に発揮されない場合を想定して、ドアの開閉ごとに自動で安全テストを行い、異常が検知されると、その箇所に応じて適切な作動がなされるという高いメンテナンス性を持つ。大手メーカーのスタンダードモデルで実現された社会的効果は大きい。

■作品名 安心・安全ライティングに関する研究

■企業・団体名 三菱電機株式会社

■作品の概要

車の動きや乗員の意思を示す図形をアニメーション化し、光を用いて路面に表示することで、子どもを含む交通参加者の安全性向上と交通事故削減に貢献。本応募作品は、効果的なアニメーション方法やタイミング等を研究したものになります。各自動車メーカーがこの技術に共感し、導入することで子どもの安全に寄与することを目的としています。



■受賞理由

歩行者の交通死亡事故の6割が18時から6時までの夜間帯に発生しており、子どもの交通事故も16時から20時が45%を占める。自動車のAI化、自動運転化を迎える時代において、こうした強くパワフルな道具と子どものような社会的弱者がコミュニケーションできる技術提案は、子どもを取り巻く生活環境の安全を担保する重要なファクターであり、そのための知見を深める研究として意義がある。

- 作品名 自動ドア装置「FJ3」
- 企業・団体名 日本自動ドア株式会社

■作品の概要

FJ3は自動ドア業界で初めてBluetooth®通信機能を標準搭載した自動ドア装置になります。CAN通信にも対応し、自動ドアの制御部とセンサー部間で通信を行うことでセンサー機器が正常に動作しているかの診断を行い、機器故障における安全性向上を行いました。また2017年3月に制定された「JIS A 4722」にも対応しております。



■受賞理由

自動ドアの開閉動作そのものが子どもの興味を引くものであり、衝突や挟まれなどの事故が報告されている。本作品は、安全性に配慮した機能もセンサーの故障等で正常に働かないケースを想定し、機器自身がセンサー故障を監視・通知する仕組みを持つ。最大の特徴である通信機能は、自動ドア本体以外との連携によって機器の稼働状況やセキュリティ機能の強化が実現でき、安全対策のIoT化へつながる可能性を持っている。

特別賞 審査委員長特別賞

展示No.5

- 作品名 応急避難施設
- 企業・団体名 国土建設株式会社



■作品の概要

被災から仮設住宅入居までの間、授乳や夜泣きのために体育館での避難生活をためらう母親のストレスを低減する応急避難施設。簡易な加工を施した汎用木材で構成され子どもたちも組立てに参加でき、緊急時何か手伝いたいと思う子どもの気持ちにも応えられる。迫る南海地震を我が事と感じてもらうために震災を知らない世代の大学生によるコンペで案を募った。



■受賞理由

材料選定や輸送手段、参加しやすい組立て方法、主要な要件をプロがまとめた後、具現化を環境建築デザイン学科の学生によるコンペとした。子どもが安全に暮らせること、子育て層が心理的負担なく暮らせること、震災への対応を学生に考えてもらうことを同時に満たす、優れたプロジェクトである。

特別賞 審査委員長特別賞

展示No.7

- 作品名 ルシアス バルコニー
- 企業・団体名 YKK AP株式会社

■作品の概要

YKK APは「ルシアス バルコニー」を中心とした窓まわりの安全性と居住性の確保に取り組んでいる。バルコニー商品は住宅2階に設置する 경우가多く、子どものよじ登りやモノの落下防止への設計配慮はもちろん、毎日の家事負担を軽減する出入り性やお掃除性、階下の採光や視線調整機能など、一年を通じて安心できる住まいづくりを実現する。



■受賞理由

ベランダからの子どもの転落事故報告は毎年、必ず存在しているが、エアコンの室外機などをよじ登るなど、スペースの使い方に起因するものがとても多い。こうしたベランダの設計という点からの配慮が進むと同時に、実績と機会を活かし、使い方を含めた安全啓発活動が幅広く展開されることを期待する。

子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン

子どもの創造性や感性に寄与する製品、建築・空間、サービス、活動、研究など。
子どもの創造性・感性の育成、多様な知識の習得や運動能力の向上に役立つもの。
また、そこに新たな発想、工夫、手法があるもの。

【クリエイティブ部門】

優秀賞 経済産業大臣賞

展示No.16

■作品名 MESH

■企業・団体名 ソニー株式会社 MESHプロジェクト

■作品の概要

MESH（メッシュ）は、様々なアイデアを形にできるツールです。センサーやスイッチなどのブロックと身近なものを組み合わせ、プログラミングによって仕組みを作ることができます。これからの時代に必要な、新しい仕組みを生み出す創造力や、身の回りの課題を解決する思考力などを、手を動かしながら楽しく身につけていくことができます。



■受賞理由

プログラミング教育やデバイス教育を企図したツールは数多く生み出されているが、デバイスとプログラミングを組み合わせ、人間の感覚や身体性をも取り込みながら、ITリテラシーや問題解決能力を育むツールとして評価した。社会を取り巻く課題は複雑化、業際化しており、「ありたい姿」を考え、そこに向かって知恵や技術を駆使していく力が求められる。子どもたちが思い描いた形ができたときの感動は、AI時代にさらに求められるクリエイティブマインドの原点となる。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.10

- 作品名 つくば7Cスタディ
- 企業・団体名 つくば市総合教育研究所

■作品の概要

つくば市教育委員会が、市内の一人ひとり全ての小中学生の特性に対応し、自ら未来を切り開くことのできるチェンジ・メイカーの育成を目指して、21世紀型スキルの育成と社会力を高めるためのICT活用教育プログラム。



■受賞理由

現在の小学生が成人する頃には、過半数が現在存在しない職業に就くと予想されている。AIに置き換えられない人間ならではの問題解決力を、ICT時代ならではのシステムを活用して、一人ひとりの特性に応じて養成するプログラムとして完成度が高い。小・中学の9年間にわたる系統的なスパイラルアップ学習を前提としており、子どもの成長発達とともにレベルアップしていく点も高く評価できる。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.11

- 作品名 VIVISTOP
- 企業・団体名 VIVITA株式会社

■作品の概要

VIVISTOPは、子どもたちが「未来を創る能力」を育むためのコミュニティスペースです。子どもたちは自らプロジェクトを立ち上げ、仲間と共に答えのない課題に試行錯誤しながらアイデアを実現していきます。目指すはイノベーター。私たちは、そのために必要なスキルや環境を全て無料で提供しています。



■受賞理由

課題を発見し、作りたいものを発案、それをどう実現させるかというバックキャスティング方式で考え、試行錯誤を繰り返しながら主体的な体験ができる。多様な企業や地域団体との協業が進められているほか、活動記録が学習環境に関する研究に活用されるなど、学びのサードプレイスとしての期待値も大きい。

■作品名

みんなで考える桃太郎

～新聞広告から生まれた中学校の道徳授業～

■企業・団体名

株式会社博報堂 / 一般社団法人シンク・ジ・アース

■作品の概要

「ボクのお父さんは、桃太郎というやつに殺されました。」という新聞広告をもとに、中学校教諭と広告クリエイターが協働し「みんなで考える桃太郎」という道徳授業を考案。生徒同士が対話で思考を深め、異なる視点から物語を見つめなおすワークショップ型授業である。現在、岡山県や東京都の中学校で実施されている。



■受賞理由

3コマで構成される授業は別の立場に立ち、異なる視点があること、解には多様な選択肢が存在すること、物語の続きを創造することがテーマになっており、まさに社会の縮図と言えるものだ。中学生がSNS、いじめ、暴力などの社会課題に向き合うために、多面的な視点で物語を捉えなおす活動であり、ワークショップ形式を取り入れ、自分ごと化しやすくする仕掛けも工夫されている。他の物語や寓話でも展開できる拡張性も期待できる。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.13

- 作品名 くるま育 中高生向けプログラム
- 企業・団体名 トヨタ自動車株式会社



■作品の概要

くるま育は、くるまやモビリティを学びの素材として、幼児から中高生までを対象とした探究心や創造性を育むワークショッププログラムです。これまで様々なワークショップを開発、実施し、さらに拡大する予定です。中高生向けは、モビリティという視点で、未来のまち、くらし、モビリティをトヨタや地域の大人と共に本気で考えるプログラムです。



■受賞理由

シェアリングや自動運転などモビリティを取り巻く環境の大きな変化の中にあって、学校、行政、NPO、企業を巻き込み、地域の将来を担う子どもたちと共に、まちの在り方を学びあうプログラムは、社会課題が単一解では解けないことに気づき、その解を探る取組として重要な視点だ。全国展開を前提に、地域や参加者のニーズに応じて柔軟に設計できる点も優れている。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.12

- 作品名 子どものカラダとアートをつなぐプロジェクト「カラダがよろこぶ美術館」
- 企業・団体名 んまつーポス(Namstrops) / 特定非営利活動法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER / 宮崎大学教育学部高橋るみ子研究室

■作品の概要

2016年に金沢21世紀美術館で取り組んだワークショップが契機となっている。クリエイターの「んまつーポス」に触発され、身体をのびのび動かして、キラキラ輝く子どもたちが美術館の関係者や多くの来場者を魅了した。そこで、誰一人取り残さない世界を上位目標にブラッシュアップしたワークショップデザインを各地で展開した。



■受賞理由

2020東京オリンピック・パラリンピックを控えているが、一方でスポーツを身近に感じていない子どもも増えている。スポーツとアートの壁を取り払った独自のアプローチは、子どもが自分の身体の使い方・動きを自覚し、その面白さを見つけ出すことができる「からだそだて」に資するものである。

■作品名 コープデリの子育て応援

■企業・団体名 コープデリ生活協同組合連合会

■作品の概要

コープデリグループは、大消費地と大生産地をつなぐ存在として、SDGs目標の「つくる責任 つかう責任」を重視。社会の子育て課題に対しては、「誰ひとり取り残さない子育て」をテーマに消費者・メーカー・産地・行政・諸団体を有機的に結ぶプラットフォームとして、個々の組織では実現しにくい、きめ細かな活動を多彩に展開しています。



■受賞理由

SDGsの目標のひとつ「つくる責任 つかう責任」は消費者教育と密接につながるものである。1都7県にまたがるこのグループの子育て支援活動は多岐にわたるが、なかでも一年間にわたって米から餅になるまでを学ぶ生産体験、野菜の収穫、出荷、販売を体験できる産地見学イベントなどは食品の生産プロセスと消費の在り方を学ぶ良質なプログラムである。地方生産者の子どもたちによる都市での販売体験など、多面的な生産者と消費者との関係づくりに取り組む姿勢も社会的提案性が高い。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.17

- 作品名 食べ残しNOゲーム
- 企業・団体名 特定非営利活動法人DeepPeople

■作品の概要

食べ残しNOゲームは、小学生が「食品ロス」を広く知ってもらい、外食の際の食べ残しをなくしたいと考案した教育カードゲーム。プレイヤーが飲食店の店主となり、儲けを出しつつ食べ残しをどう減らすかを競うもので、遊びながら食品ロス問題を考え、その原因や解決方法を楽しく学べる。社会問題が自分事になり、主体的に学ぶことができる。



■受賞理由

当時小学6年生の児童がアクティブラーニングプログラムを通して考案したゲームを商品化したものである。プロダクトとしてのクオリティには改善の余地はあるが、実家の飲食店でフィールドワークを行うことで気づいた問題を、その原因と消費者としてとるべき行動までを理解できる教材に仕立て、意志ある事業者がそれを社会デビューさせたプロセスを応援したい。

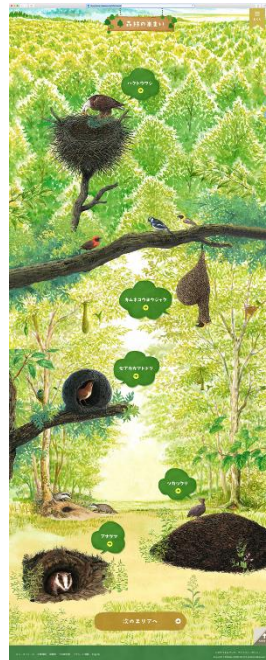
奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.18

- 作品名 いきものたちの巣まい図鑑
- 企業・団体名 ミサワホーム株式会社

■作品の概要

様々な生きものたちの巣に隠された「子どもを守り、育てる工夫や知恵」を通して、子どもの創造性を育て、「住まいは子どもたちのためにあること」を親子で感じてもらうためのWebコンテンツです。創業50周年を機に、ミサワホームの住まいづくりの理念「住まいは巣まい」に基づいて企画制作しました。



■受賞理由

住まいが持つ本質的な価値と機能を、生きものの巣をモチーフに紹介した親子向けWebコンテンツであり、住まうことの意味を問いかける良質な内容となっている。間取りや環境に関するプログラムとは一線を画した新規性のあるアプローチである。

■作品名 アベマキ学校机プロジェクト
 ■企業・団体名 美濃加茂市 / 可茂森林組合 / 合同会社椿洞ものづくり研究所 / 株式会社丸七ヒダ川ウッド / 美濃加茂市立山之上小学校

■作品の概要

岐阜県美濃加茂市の里山に群生するも用途がなく厄介ものであったアベマキを小学校の机の天板として活用するプロジェクト。地元の小学校の環境教育の一環として、5、6年生が伐採から製材、加工を見学・体験し、出来上がった天板を卒業時に自身が使っていた机の天板と取り換え、新1年生に贈る。毎年繰り返すことで継続的な里山整備も実現する。



■受賞理由

加工の難しい放置林の材を用途開発し、小学校での継続的な活用につなげると同時に、地域の里山を児童へ開放した点、ものが出来上がるプロセスを知り、その気持ちで下級生へものを作ること、など地域のバリューチェーンへの理解は、環境教育から一歩踏み込んだ創造教育と言える。

■作品名 UDデジタル教科書体 和文・欧文・学習記号
 ■企業・団体名 株式会社モリサワ

■作品の概要

デジタル教科書をはじめ、ICT教育の現場に効果的なユニバーサルデザイン書体です。学習指導要領に準拠し、書き方の方向や点・ハライの形状を保ちながらも、太さの強弱を抑えるなど可読性を高める工夫をしました。「UDデジタル教科書体」、「UDデジタル教科書体 欧文」、「UDデジタル教科書体 学習記号」を提供しています。

子どもたちに読みやすく、学びやすいフォント
UDデジタル教科書体

和文の特徴

<p>UDデジタル教科書体</p> <p>山 追 令 さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に準拠した字形 ・ロービジョン（弱視）、ディスレクシア（読み書き障害）にも配慮したデザイン ・ICT教育にも効果を発揮 	<p>通常のゴシック体</p> <p>山 追 令 さ</p> <p>教育現場に準じたふたどちがいが表えにくい</p>
<p>通常の教科書体</p> <p>山 追 令 さ</p> <p>縦書きに近く、線の幅目があるため一部の子どもにとって読みにくい</p>	

欧文の特徴

ab → ab	手の動きを重視した形状にする
bd → bd	縦文字と間違えないように左右対称の形を避ける
RK → RK	なるべく少ない画数で書ける



■受賞理由

ICT教育ではプログラムやインターフェイスが話題になりがちだが、そもそもの情報の入り口であるフォントのUD化も重要である。デジタル教材など新たな教育ツールのほか、最も普及しているPCのOSに標準採用されたことで、教員が作るプリントでも使用でき、その効果が大きい。

子どもたちを産み育てやすいデザイン

子どもや子育てに関わる人々に寄与する製品、建築・空間、サービス、活動、研究など。妊娠・出産・子育てに関わる人が利用する製品、建築・空間、サービス、活動、研究において、安全かつ楽しく育児に取り組める工夫がなされたもの。保育園、学校、自治体、地域などで利用されるものも含む。また、子育て期の男女が、育児や仕事、地域との交流などに積極的に参加するための新たな発想、工夫、手法があるもの。

【個人・家庭部門】

優秀賞 少子化対策担当大臣賞

展示No.33

■作品名

ベビーカレンダーアプリ

■企業・団体名

株式会社ベビーカレンダー

■作品の概要

「ベビーカレンダーアプリ」は、妊娠中のプレママ・子育て中のママとパパに医師・専門家監修の安心かつ信頼できる妊娠・出産・育児の情報を提供することで、ママとパパが安心して赤ちゃんを産み、笑顔で子育てできるようサポートをします。



■受賞理由

情報サービスの多様化により、利便性向上の一方で信頼できる子育て関連情報がどれなのかが分からず、不安を募らせてしまうという逆行現象が起こっている。本作品の特徴は、デジタルとアナログをバランスよく組み合わせ、助産師、栄養管理士など、子育てに近いプロフェッショナルが直接答えてくれる点にある。即時性と信頼性の高い情報を入手でき、ユーザー数も多く、SNS時代の子育て層にとって心理的側面の支援になる有効なサービスである。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.31

■作品名 病児保育ネット予約サービス「あずかるこちゃん」

■企業・団体名 CI Inc. / 株式会社インキュビット

■作品の概要

本システムは、病児と病児保育施設の最適なマッチングをWeb上で行うサービスです。一括での複数施設予約が可能のため、より希望順位の高い施設でキャンセルがあると、システム上で予約先が自動的に変更されます。また、施設側は電話対応から解放され、PC等で利用者情報を管理できるため、病児保育の質を向上させることが可能です。



■受賞理由

病児保育施設数は年々増加しているものの、問い合わせが集中する朝方の電話のつながりにくさやキャンセル率の高さなどの理由から、利用率は35%と低いのが実態である。デジタルならではの利点を活かした本システムは、出勤前の保護者の負担を軽減しつつ、補助金を出す市区町村の費用対効果改善など、複数の社会的メリットがある。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

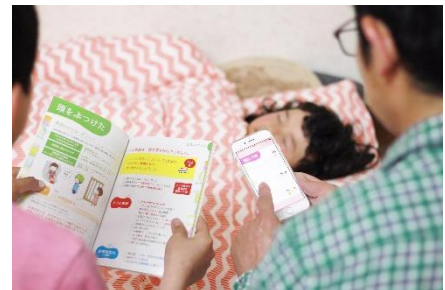
展示No.32

■作品名 教えて！ドクター こどもの病気とおうちケア

■企業・団体名 長野県佐久市 / 一般社団法人佐久医師会

■作品の概要

「夜に急な発熱・・・どうしたらいいの？」 子どもの病気について不安は尽きないもの。当事業は、こうした子育て家庭の不安軽減を図るほか、子育て力向上により、不要不急の受診抑制、ひいては医療費の軽減を図ることを目的とした仕組みづくりである。子どもの病気等に関する冊子・アプリを作成し、医師が出前講座を行い保護者の啓発に取り組んだ。



■受賞理由

不要不急の救急外来の解消へ向けて、子育てする保護者へ向けた啓発、不安解消のための一歩進んだ取組である。自治体ならではの多岐にわたる信頼性の高いコンテンツサービスや、多様なチャネルで伝える工夫など広域的な取組は重要である。

■作品名 ベリーベアー深川冬木

■企業・団体名 積水ハウス株式会社 / 株式会社ネス・コーポレーション

■作品の概要

定員200名の江東区認可保育園。敷地は門前仲町駅に近く首都高速9号深川線の高架下にある。建築前は樹木が鬱蒼と茂り、公園内は閑散としていたが、高さ15メートルを超える数本のケヤキの巨木があった。これらを「土地の記憶」として残し、ここで育つ子どもたちが木の存在を身近に感じられるよう「ケヤキを囲む園舎」を計画した。



■受賞理由

子育て世帯の増加著しい都市部では、保育園に適した敷地は限られ、近隣住民との関係性なども含め、待機児童対策を阻む様々な障壁がある。本作品は高速道路高架沿いの全長180メートルを超える緑地帯を活用し、「街に開く」「自然を感じる」のテーマを空間環境としても、運用としても見事に実現させている。園児、親、先生のみならず地域住民との交流プログラムは「地域で見守り、子育てする」ための都市型保育園の優れたモデルケースとして非常に参考になる。

■作品名 SDGs子ども見守り隊「きみも今日からきりっこキッズ見守り隊」

■企業・団体名 近江八幡市

■作品の概要

消費者被害のターゲットになりやすい高齢者・障がい者の見守り活動を子ども主体で行う取組。「自分たちの住む町は自分たちで良くするんだ！」という意識を持ってもらい、子どもが大人を、大人が子どもを、そしてみんながみんなを支え合い、見守り合う町を作るための仕掛けづくりです。



■受賞理由

消費者被害等の実態を一方向的に伝えるのではなく、実際に被害に遭う可能性のある対象者に直接会い注意喚起することはリアリティがあり、社会の一員としての意識醸成への効果も大きい。子どもを「見守りの対象」と決め付けるのではなく、「子どもが地域を見守る」という主役に据えたことは極めて重要な視座を持つ。これにより、地域全体に好影響をもたらした好事例である。

■作品名 向原住宅団地再生事業

■企業・団体名 東京都住宅供給公社

■作品の概要

築50年超の大規模な団地型賃貸住宅「向原住宅」を、子育て世帯をはじめ多様な世帯が将来にわたって生き生きと暮らすことのできる住まい・まち「コーシャイム向原」へ再生。建物の集約化により創出した用地には保育所やサービス付き高齢者向け住宅の整備、さらに高齢者・障がい者施設の誘致等、団地再生とともに地域の拠点整備を進めている。



■受賞理由

高齢化が進んだ集合住宅や地域のストック住宅対策として、他地域にも波及効果が見込める取組である。制度導入に留まらない、多世代交流の拠点化も重要な視点である。第2期竣工までにすでに670世帯のコミュニティが生まれ、子育て世帯も建替え前の3倍以上になるなど、施策の有効性を実証している。

■作品名 三菱レンジグリル(オープンレンジ)RG-HS1

■企業・団体名 三菱電機株式会社

■作品の概要

レンジとグリルが自動的に連携運転することで短時間で簡単においしく調理ができるオープンレンジ。料理が苦手な男性でもガイドに従うだけで多彩なメニューを作ることができます。食卓に出せる付属の各皿を用いれば洗い物の時間も短縮し、充実した家族団らんの時間を増やします。



■受賞理由

家事参加の意欲がありながら、料理には躊躇する男性の中には、失敗を恐れ自ら心理的なハードルをつくってしまうケースも多い。小型でありながら、レンジ、オーブン、グリルの3つの機能をストレスなく連携する調理器が料理を身近なものに変え、日々の簡単な夕食であれば作ろうという気持ちにさせてくれる。共働き世帯の家事分担は気持ちの面ばかりが取り上げられがちだが、家電のデザインから提案している。男性の家事・育児参加をプロダクトサイドから支援する良質な取組と言える。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.26

■作品名 子育て戦隊パパレンジャー

■企業・団体名 豊田市男性保育師連盟

■作品の概要

父親に特化した子育て支援プロジェクト。2008年から続くこの事業は、一日で定員50組を大幅に超える人気ぶり。豊田市で10年以上定着浸透したこの事業は、「男性保育士×パパ」というキーワードのもと全国に波及し、父親の育児支援活動のモデルとなっている。



■受賞理由

育児を学びたい男性の心理的ハードルを下げるだけでなく、男性同士の交流や時間的な変化にも配慮がある点は特筆すべき工夫である。毎年リピーターが5割を占めていることで地域の自主的な活動へつながっている点にも共感する。本作品をスタンダードモデルとして、男性保育士を活用した父親の育児参加支援が広まることに期待したい。

奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

展示No.28

■作品名 トモイエ 共働きファミリーが暮らす家

■企業・団体名 積水ハウス株式会社

■作品の概要

仕事も家族で過ごす時間も、一人の人間としての生活も充実していきたい。そんな「共働きファミリー」が快適に暮らせる家。家族みんなで楽しく効率よく家事をこなせ、日々の負担を軽くする。家族それぞれが心からリラックスできるイドコロがあり、家族の時間も自分の時間も大切にできる。「ここに帰ってこられるから、毎日がんばれる」と思える家。



■受賞理由

共働き世帯に向けた住宅の家事動線提案の多くは、女性視点のみが強調されがちであるが、同社調査では「家事は家族みんなで協力する方が良い」と考える人が、共働き世帯で95%、専業主婦世帯でも86%とユーザーの意識変化は顕著である。共働き世帯の時間的、空間的な住宅の細かな課題に着目し、住み手の共感を得る工夫が随所に見られ、暮らし方の提案につながっている。

特別賞 審査委員長特別賞

展示No.23

- 作品名 フィロル
- 企業・団体名 株式会社オカムラ



■作品の概要

市役所などの公共の待合空間において、利用する多くのユーザーが快適に過ごせることを目指したロビーチェアです。開発プロセスにおいて、自治体の協力による市民参加型ワークショップを複数回実施し、市民の生の声を製品に反映しました。親子での2人座りが可能となる幅の広い座席の設定や、ベビーカーの取り回しへの配慮を行っています。



■受賞理由

公共機関での家具・什器の使われ方は家庭用と異なり、様々なシーンを想定しなければならない。本作品は市民参加型ワークショップによる調査により3つの課題を抽出し、その結果をデザインに反映させた。子どもや子育てに付随する細かな課題への配慮が見えるプロダクトとしてクオリティが高い。

特別賞 審査委員長特別賞

展示No.29

- 作品名 認定こども園 なこそ幼稚園
- 企業・団体名 株式会社川島真由美建築デザイン / 学校法人勿来中野学園

■作品の概要

地方の住宅地を縫うように建つ認定こども園である。教育理念に基づき、厚板耐力木壁が現しとなった積木でできたような教室を散りばめ、たくさんの「隙間」で「適度な透明感のある環境」を作った。地域の家々や緑と空が見える風景は、子どもの想像力を豊かにし、子どもが地域との結びつきを感じ、地域に見守られ、新たな交流を共に育んでいく。



■受賞理由

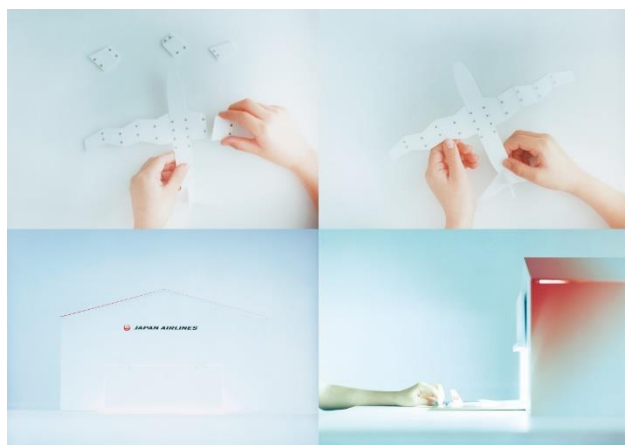
住宅地の複雑で狭小な敷地という立地条件と木壁の隙間を活かした空間づくりで、子どもは外とつながり、地域には開かれた保育・教育の場として絶妙なバランスを持つ。隣接する託児所や小学生クラブにも提供される開放感ある園舎は、住民や異年齢の子どもとの交流を促し、地域の子育て支援施設の中核としての機能を発揮している。

■作品名 JAL STEAM SCHOOL

■企業・団体名 日本航空株式会社

■作品の概要

JAL STEAM SCHOOLは、日本航空が開講した教育プログラム。日本航空がCSRとして取り組む次世代育成「空育®」の新たなプログラムで、理数系の力と創造力を育む教育概念「STEAM」を軸にしています。飛行機と空の世界を、科学・テクノロジー・エンジニアリング・アート・数学の5つの領域から紐解く体験型の授業です。



■受賞理由

近年、我が国でも注目され始めたSTEAM教育は、理系4分野と芸術を統合的に学ぶ教育手法である。本格的なシミュレータを使い、自分の手で作ったものがどう動くのか、航空力学をわかりやすく学べる卓越したプログラムであり、理数系の発想とデザイン力を喚起するという点において、本賞にふさわしいものと評価した。

受賞作品検索サイト 10月25日公開予定！

第12回受賞作品252点を含むこれまでの受賞作品2,705点の作品をご覧ください。

KIDS DESIGN AWARD 受賞作品検索

<URL> <http://www.kidsdesignaward.jp/search/>



(ご参考) 現時点では第11回までの受賞作品を閲覧できます。

<応募企業様からのお問い合わせ先>

「第12回キッズデザイン賞」事務局

TEL : 03-5405-2142 FAX : 03-5405-2143 (平日10:00-17:00)

主催 : 特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会 TEL : 03-5405-2141 FAX : 03-5405-2143
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル7階

* 受賞作品の画像素材のご要望等につきましては、下記、広報事務局までお問合せ下さい。 *

<本資料に関する報道関係の方からのお問い合わせ先>

「第12回キッズデザイン賞」広報事務局 (カーツメディアワークス内) 澤田・田口・小石

TEL : 03-6427-1627 FAX : 03-6730-9713 E-mail : info@kartz.co.jp